



毎年9月23日は 手話言語の国際デー 手話の日



2017(平成29)年12月19日、国連総会において、9月23日は「手話言語の国際デー」と定められました。

日本では、2025(令和7)年に制定された「手話に関する施策の推進に関する法律(手話施策推進法)」により、9月23日は「手話の日」とされました。



手話言語を知ること、人を知ること

「手話言語の国際デー」は、手話言語が音声言語と対等な言語であることへの理解を広げ、ろう者の人権を守ることを目的としています。



9月23日の「手話言語の国際デー」「手話の日」をきっかけに、あなたも手話言語について考えてみませんか。

世界へ広がるブルーライト

毎年9月最終週の「国際ろう者週間」には、「世界平和」の象徴である青色の光で、世界各地の建物やランドマークがライトアップされます。



このブルーライトには、手話言語への理解を広げ、手話言語を使う人々の尊厳を守り、誰もが安心して暮らせる社会への願いが込められています。

手話言語とは



手話言語

手話言語は、ろう者の間で自然に生まれ、長い年月をかけて受け継がれてきた言語です。

手の形や位置、動きに加え、表情や視線、口の形、体の動きなどを組み合わせ、視覚的に意味を伝え合います。

また、日本語などの音声言語とは異なる独自の文法体系を持ち、単なる身振りや日本語の代替手段ではありません。

手話言語は、ろう者が考え、学び、思いを伝え合い、文化を育むために欠かすことのできない大切な言語です。



ありがとう

手話言語への差別

かつて、ろう学校などの教育現場では口話教育が重視され、手話言語の使用が禁止されていた時代がありました。

発声や読話を中心とした教育の中で、多くのろう児は自分の言語で学び、自分の気持ちを表現する機会を奪われてきました。



おつかれさま

また、社会においても手話言語は「猿真似」などと揶揄され、偏見や差別の対象とされてきました。

その結果、多くのろう者が手話言語を自由に使うことを制限され、自らの言語や文化への誇り、そして尊厳を深く傷つけられてきました。



なに？

手話言語を使う権利

ろう者は、差別や偏見に屈することなく、手話言語を守り、育み、次の世代へ受け継いできました。

そして、自らの権利を求める歩みの中で、手話言語を使う権利の実現に向けて取り組んできました。

現在では、全国各地で手話言語条例の制定や手話施策の推進が進み、誰もが安心して手話言語を使える社会づくりが進められています。



よろしく おねがいします

手話言語はいのち、生きる力



おはよう

手話言語は、ろう者にとって第一言語であり、「いのち」であり、「生きる力」そのものです。

そして、自分らしく生きるために欠かすことのできない、かけがえのない言語です。

ひろがる手話言語



こんにちは

近年、手話言語への理解と関心は大きく広がっています。

学校や地域での手話学習、企業や行政機関における情報保障の充実など、さまざまな取組が進められています。

さらに、2025(令和7)年に東京で開催されたデフリンピックを契機として、手話言語やろう者への理解と関心は一層高まりました。



こんばんは

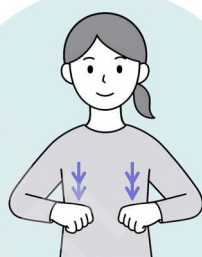
手話言語は、私たち一人ひとりの理解と行動によって、さらに社会へ広がっていきます。

多様性を認め合い真の共生社会へ

世界には多様な言語があり、手話言語もその一つです。

手話言語と音声言語、それぞれの価値を認め合うことは、多様性を尊重することにつながります。

互いを理解し、認め合い、誰もが自分らしく安心して暮らせる社会を築いていくことが、真の共生社会の実現へとつながります。



がんばる

(元気)

手話言語を知ることが、 共生社会への第一歩です